

令和6年度 大和市障害者自立支援協議会 児童部会 活動報告

大和市障害者自立支援協議会 児童部会事務局

部会員等(敬称略):ぴこっと、児童発達支援センター第1 松風園、
はあとふるキッズ大和南、大和市青少年相談室、
大和市こども・青少年課、大和市教育委員会指導室、
大和市すくすく子育て課発達支援係、瀬谷支援学校連携支援グループ
横浜ひなたやま支援学校連携支援グループ、三ツ境支援学校連携支援グループ、
大和市障害者自立支援センター、サポートセンター花音、相談支援センター松風園

1. はじめに

令和5年度に引き続き、「保護者が就労している家庭の“支援が必要な子ども”の過ごす場を考える」をテーマに検討を行っている。以下の4つの地域課題を確認・共有しながら活動を行っている。

- ① 支援の困難なケースへの対応など(子どもの困り感)
- ② 就労している保護者への支援など(保護者の困り感)
- ③ 人財、人手不足、保育の質の向上など(現場支援員の困り感)
- ④ 関係機関(学校・児童クラブ・放課後等デイサービス・相談支援事業所・家庭)との連携・協力体制の構築など(管理部署の困り感)

令和6年度は、相談窓口案内の周知・活用、座談会の開催の2点を中心に検討を行っている。

2. 目指すゴール

【長期】将来求められる姿

就労している家庭の“支援が必要な子ども”が地域の中で安心して過ごせるようになる

【中期】2～3年後に求められる姿

“支援が必要な子ども”の過ごす場について具体的な改善案を実施していく

【現在】令和6年度に求められる姿

“支援が必要な子ども”の過ごす場について対話を行い、その中で出た話を基に具体的な取り組みを検討する。

3. 活動内容

- 第1回 令和6年6月12日(水) ハイブリッド(オンラインと対面)で実施 14名参加
・部会長承認、自己紹介、令和5年度の活動の振り返り、令和6年度の取り組みについて
・相談窓口の一覧を確認
・座談会開催に向けて、内容に関する意見交換を行う。

- 第2回 令和6年9月11日(水) ハイブリッド(オンラインと対面)で実施 12名参加
・事前アンケートの共有、座談会当日の流れ、役割分担などについて確認。

○第3回 令和6年9月27日（金）保健福祉センター1F ホールで実施 26名参加

（内訳：放課後児童クラブ11名、児童部会員15名参加。）

前半は部会長より講義を行い、後半は4グループに分かれて「未来予想図」セッションとして、「はじめに」の部分で触れた4つの課題それぞれに関して、

①5年後の未来～5年後の理想的な放課後児童クラブの姿とは？～

②具体的な行動計画～未来図を実現するために、今から何ができるか？

をテーマにグループワークを行った。

○第4回 令和6年12月11日（水）対面で実施 12名参加

・座談会の報告、共有を行う。

・令和7年度の活動についてアイデア出しを実施。

○児童部会ワーキンググループ 実施回数：年7回（現在）ハイブリッド（オンラインと対面）で実施

児童部会長、大和市発達支援連携連絡会長、事務局で、部会の進行準備や記録作成、連絡調整を実施

4. まとめ

令和6年度は、保護者が就労している家庭の“支援が必要な子ども”の過ごす場について対話を行い、その中で出た話を基に具体的な取り組みを検討することを目的に活動を行ってきた。9月には、放課後児童クラブの現場で支援にあたる職員の皆さんを募った座談会を開催した。参加人数としては少なかったが、地域で子どもたちとかかわる関係者が“顔の見える繋がり”をつくり、地域の中で子どもたちを支えていくための意見交換をする機会となった。相談窓口案内についても、座談会で配布をして周知をしている。座談会当日の内容をまとめた広報誌を作成し、当日参加できなかった放課後児童クラブの方々にも取り組みの内容を発信した。来年度は、座談会の中で挙げた意見やアンケートを参考にし、地域における具体的な取り組みや支援体制作りについて検討していく。

以上

大和市発達支援連携連絡会

<目的>

- ・地域の関係機関との連携の場としての連絡会

令和3年度まで自立支援協議会児童部会で築いてきた連携の機能を、大和市児童発達支援事業所連絡会、大和市放課後等デイサービス事業所連絡会、大和市児童相談支援事業所連絡会がより具体的、合理的に引き継いでいる。各連絡会が各々に活動して地域全体の動きが見えなくなってしまうことがないように、情報共有の場として、地域の中核機関である児童発達支援センター第1松風園が“地域支援の役割”として実施する。また、その中で出てきた地域全体の課題について必要に応じて検討していく。

<活動内容>

- ・年3回（自立支援協議会児童部会と同日に開催）
- ・各連絡会での取り組みの報告
- ・その他（相談支援ファイルかけはしの活用についての報告など）

○令和6年度の各連絡会の取り組み

大和市児童相談支援事業所連絡会	・大和市教育相談コーディネーター連絡会への情報提供 ・情報交換会（青少年相談室との情報交換会） ・大和市発達障害勉強会（年2回） ・すくすく子育て課発達支援係と相談支援事業所との情報共有や意見交換など(2ヶ月に1回の実施)
大和市放課後等デイサービス事業所連絡会	・地震災害時の安全確保の仕方、備え ・令和6年報酬改定に関する情報共有と大地震を想定した「一斉引き渡し訓練」の実施（2月7日） ・「一斉引き渡し訓練」の気づきや問題点の意見交換 ・その他、連絡会で上がった課題について意見交換
大和市児童発達支援事業所連絡会	・2ヶ月に1回開催。 ・事業所見学：まなびの森きらり中央林間・第1松風園 ・座談会：「報酬改定」「改訂版児童発達支援ガイドライン」「アタッチメント」「移行支援」「児童発達支援センターの役割」をテーマに開催。

令和6年度 大和市障害者自立支援協議会 地域生活支援部会報告

構成委員（敬称略）：大和市手をつなぐ育成会

大和市肢体不自由児者父母の会、大和さくら会、
大和市社会福祉協議会地域生活支援課、カーサ柳橋
成年後見センターかけはし、大和市障害者自立支援センター
相談支援センター松風園、大和市障がい福祉課
南林間地域包括支援センター、福田北地域包括支援センター
サポートセンター花音

オブザーバー：深見大和地域包括支援センター

1. はじめに

今年度は下記の2点をテーマとして掲げています。

- (1)「障がいのある人及びそのご家族の高齢化に伴う地域生活上の課題を探り、障がい分野、高齢分野含め、地域の中で風通しの良い、連携を取れたスムーズな支援体制の構築を目指す」
- (2)「あんしんノートのさらなる普及と活用のために、あんしんノート作成用のツールを作成する」

2. 今年度の活動について

今年度の地域生活支援部会では、毎月1回、部会メンバーによる会議をオンライン開催及び対面開催にて実施しました。

高齢福祉分野との連携については、地域生活支援部会内での情報共有や課題共有の他、高齢福祉分野との顔の見える関係づくりの一つとして、地域包括支援センター主催の合同地域ケア会議に参加し、障がい者福祉の制度やサービスの説明、介護保険のケアプランと障がい者のサービス等利用計画の書式の違い、サービス内容の違いなどを学び、各参加者が抱える課題及び課題と感ずることなどを共有しながらグループワークを実施し、情報交換等をおこないました。

あんしんノートの普及と活用については、あんしんノートの説明や記入の仕方、使い方やメリットをわかりやすく紹介する動画作成を行い、障がい者週間事業にて展示しました。

3. 活動内容

(1) 高齢福祉分野との連携強化活動

○北部居宅介護支援事業所との合同地域ケア会議への出席

日 程：令和6年10月21日（月）

内 容：テーマ「障害制度の理解と他機関との結びつき」

会 場：大和市地域医療センター 2階講習室

参加者：地域生活支援部会メンバー12名 全体参加者54名



(2)普及啓発活動

○障がい者週間事業

日程:令和6年12月4日(水)~5日(木)

内容:あんしんノートの紹介

あんしんノート及び書き方見本の展示と配布

あんしんノート作成用動画の展示と紹介

会場:イオン大和鶴間店ウォーターコート



(3)高齢福祉分野との連携強化活動

○南部3包括合同 圏域地域ケア会議への出席

日 程:令和7年1月30日(木)

内 容:テーマ「障がい福祉制度の理解と機関連携」

会 場:大和市渋谷学習センター【IKOZA(イコーザ)】

参加者;地域生活支援部会メンバー10名 全体参加者53名



3. まとめ

高齢者福祉分野との連携については、今年度は大和市北部及び南部の地域包括支援センター主催による合同地域ケア会議に参加しました。障がい福祉制度や障がい福祉サービスについて大和市障がい福祉課よりご説明いただき、サービス等利用計画とケアプランの書式の違い、障がい福祉サービスと介護保険サービスの内容の違いを含め、参加された居宅介護支援事業所のケアマネージャー、スタッフ、地域包括支援センターの職員方とグループワークをおこないました。居宅介護支援事業所からは、障害の区分や支給量の設定についての意味がわかったとの声もでていましたが、障がいサービスを利用する際のプランの作り方の課題などもあがっていました。障がいサービス関係事業所からは、介護保険制度やサービスについて詳しく知りたい。障がい者福祉のサービスと介護保険サービスのギャップを知り、そのギャップを埋めていけるような場があれば、また、定期的な交流の場があるとよいなどの声があがっていました。グループ内でのディスカッションを通じて、障がいを抱えた方の高齢化に伴う対応や介護保険移行についての課題を話し合う機会となり、顔の見える関係づくりの一助となりました。

障がい者の高齢化や高齢者が障がいを抱えた場合など、支援対象者の状態が複合的になることがあり、適切なサービスへ迅速に繋げる仕組みが必要となります。今後も、専門分野が異なる同士が連携することにより、多様な課題に向き合い、相互に学び合う研修や事例共有の場を設けることで、支援の幅を広げる取り組み及び地域連携力の向上における取組みが求められています。

次年度については、地域生活支援部会の名称を変更し、高齢福祉分野との連携を強化していく取り組みを継続してまいります。

「あんしんノート」の普及啓発については、過去数年間にわたり取り組んできました。「あんしんノート」は、障がいのある人が、親が亡くなった後も住み慣れた地域で安心して生活し続けていくためのツールの一つでもあります。ご家族が元気なうちに記入することで、将来に向けて必要な準備について整理することにもつながります。また、将来の生活に向けて、ご家族が担っているサポートをご家族以外の人(施設、機関等)に引き継いでいくためのノートでもあります。今年度は、「あんしんノート」をより多くの方々に知って頂くために、普及啓発と記入の仕方についてパワーポイントによる動画を作成しました。

「あんしんノート」を活用することにより、①障がいのあるご本人のことを一番知っているご家族に「もしもの

こと」が起きた時、必要なサポートを受けることができるように備えておくことができる。②ご家族の状況が変わっても、それまでの生活を続けていくことができるためのツール、引継ぎ書として活用できる。③新たなサービスを利用するとき、モニタリング時、災害時等でも活用されることが想定できる。④障がい分野にとどまらない活用も検討できるなどがあげられます。「あんしんノート」作成用の普及啓発動画については、「なんでもそうだんやまと」のホームページ上に掲載予定です。

以上

令和 6 年度 大和市障害者自立支援協議会 精神保健福祉部会 活動報告

部会員等（敬称略）：地域活動支援センターポピー、やまとまと、大和さくら会、大和病院総合支援課、森の家、あゆみの家、ホープ大和、ワーカーズ想、大和市社会福祉協議会、大和市立病院地域連携科、厚木保健福祉事務所大和センター、相談支援センター松風園、サポートセンター花音、大和市障がい福祉課、大和市障害者自立支援センター

はじめに（これまでの経過から）

大和市における精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの整備を目的とし、精神障がい者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療・福祉・住まい・社会参加（就労）・普及啓発・保健予防が包括的に確保されたシステム作りの構築を目指し、活動を行った。

今年度はこれまでの活動の総まとめを行うため、去年度まで継続していた活動は引き続き行いながら、大和市の資源や現状、今後取り組むべき課題について協議を行った。

2. 活動内容

①職員向け研修・交流会の開催

2024 年 9 月 24 日に「精神障がいの当事者の声を聴く」という内容で、当事者の方 3 名がそれぞれ利用している障がい福祉サービス（共同生活援助、就労継続支援 B 型、居宅介護）を利用して感じていること、利用に至った経緯等についてお話いただいた。障がい福祉サービス提供事業所 14 名、地域包括支援センター 3 名、家族 2 名、行政機関 1 名の計 20 名の参加があった。

それぞれ当事者から話を聞いた後に、支援者同士のグループワークで日々の自身の支援や今後の支援で参考にしたいこと等を話し合った。信頼関係を構築していくことの大切さや、その中で自身の意見を尊重してもらえたという経験を積むこと、安心できる場所であること等、キーワードになる言葉が多くの方から聞かれた。



②あんしん賃貸支援事業協力不動産向け勉強会の開催

2024 年 10 月 22 日に、昨年度に引き続き、障がい福祉との連携事業として、大和市内の協力不動産店に対し、勉強会を開催した。この勉強会は以下目的で実施している。①精神障がいのある方の入居に対して、安心材料を提供する②障がいがある方が地域でどのようなバックアップを受けて生活しているのかを知ってもらう③協力不動産店と障がい者を支援している事業者との出会いの場をつくる。



協力不動産 5 店舗 6 名と当事者、障がい福祉関係者等 11 名が参加し、情報交換を行った。精神障がいの概要として、精神障がいについてや、1 人暮らしをしている方の事例紹介、障がい福祉サービス等について、支援を受けながら多くの方が地域で生活していることをお伝えした。一方で協力不動産店の方からは、ビジネスで賃貸経営を行っているため、経営リスクを減らせることが基本的な着眼点にはなっており、どのような症状があるのか、体調が悪くないときの病状の見える化ができると良いのではないかとご意見をいただいた。



次のステップとして、協力不動産店の方から事例の共有や検討会を開催してほしい、との声があったため、来年度連絡会の中で検討していきたい。

3. まとめ

今年度は感染対策をしながら対面で部会を開催した。昨年度に引き続き、住まい・社会参加に関しての討議へ継続し、上記勉強会や研修会を実施した。

また、これまで「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けた活動してきたことをまとめる作業として、大和市の現状や課題を整理したものを作成した（※別紙1）。しかし、今後も検討していく必要がある事項や課題については協議する場の確保が必要であるため、今年度で精神保健福祉部会は終了となるが、地域活動支援センターポピーが事務局を担い連絡会に形を変え、今後も協議の場を確保していく。

以 上

精神保健福祉部会 活動総括（令和３年度～令和６年度）

精神障害者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合い、教育が包括的に確保された「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けた活動について、報告します。

【発足の経緯】

精神障害に関連する地域課題を検討する場として、平成 28 年度に、障害者総合支援法に基づく会議体である大和市障害者自立支援協議会（以下、「自立支援協議会」という。）から精神部会が独立して、大和市精神保健福祉連絡会を発足。地域活動支援センターが事務局、当事者会や家族会、障害福祉サービス事業所や市社会福祉協議会、大和センターなどがメンバーとなり、事業所交流や職員の研修、普及啓発を中心に独自に活動を行っていました。

令和３年４月からは、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて、上記連絡会を、自立支援協議会の部会に再編し、部会長を地域活動支援センターに、事務局を基幹相談支援センターである大和市障害者自立支援センターで開始しました。

【取り組み経過】課題ごとにワーキングチームに分かれ、取り組みました。

令和３年度

大和市の地域診断を行い、既存の資源についてリスト化し、まずは①社会参加②住まい③医療の３つのグループに分かれて情報の整理を行った。

令和４年度

①社会参加…普及啓発と事業所のネットワーク強化を目的にした研修の企画（悪天候により未実施）

②住 ま い…市内グループホームの情報冊子の作成

③医 療…こころの健康相談ができる窓口や医療機関情報等をまとめたポスターを作成。

上記整理した情報を「なんでも・そうだん・やまと」のホームページに集約し、アクセスしやすくした。

普及啓発として、こころの健康講座「精神疾患とは？」という内容で精神科医と当事者の話を聴く講習の実施。

令和５年度

①社会参加…事業所の新人職員向けに当事者の話を聴く研修の実施。ピア活動を広めるための情報収集。

②住 ま い…あんしん賃貸支援事業協力不動産向け勉強会の実施

令和６年度 取り組みのまとめ

①社会参加…事業所の新人職員向けに当事者の話を聴く研修を実施

②住 ま い…あんしん賃貸支援事業協力不動産店との情報交換会の実施

【課題整理】課題ごとにワーキングチームに分かれ、取り組んだことを、次の通り整理しました。

精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム整理表2024 ◎大和市 ○神奈川県・圏域

項目	課題	ある資源・取り組んだこと	取り組んでいくこと
普及啓発	当事者・家族等と連携した理解促進	◎精神科医と当事者会を講師とした研修 ◎支援者向け研修を実施	市民向け・支援者向け研修を継続
	精神障害者地域生活サポーターの養成	◎ピアサポーター：1名取得済 ○チームセントラル：指定病院に出向き退院後の地域生活について入院患者向けにお伝えの機会などピアサポート活動を実施（コロナ禍で停止） 対象：入院中の患者、医師、看護師	・大和市にもピアサポーターが1名いるため、具体的な活動を知る機会を持つ。また圏域・県域で実施している活動を知る機会を持つ。見学・情報収集を行う。
住まい	課題の実態把握 必要な GH 等整備	◎GH 事業所冊子を作成 ◎大和市内GH事業所連絡会を実施	・情報の更新
	自立生活援助サービス等の地域支援の充実・活用による公営住宅等への入居促進	◎あんしん賃貸事業協力不動産との意見交換を実施（連携・理解促進・勉強会） ◎ケースを通した不動産屋との連携 ○かながわ居住支援協議会 ○県営住宅：7 か所◎市営住宅：6 か所 ○かながわ住まいの情報誌 神奈川県居住支援協議会 ○居住支援ガイドブック 神奈川県居住支援協議会 ◎街づくり総務課：障がいがある人を知ってもらうためのガイドを作成（R2 年）	・緊急時に連絡をとれる先などが必要（近隣トラブル、死後対応、家賃滞納などの対応） ・障がいについては事前に報告する方が良い（不動産屋意見） ・受け入れ実績のある不動産屋から繋がりを持つ ・不動産屋が OK でも大家は NG との声があるため、大家向けに理解促進の機会を作る
	住宅セーフティネット制度の周知、居住支援協議会との連携	◎居住支援ネットワーク会議 ◎セーフティネット住宅：登録住宅 8 箇所 ◎あんしん賃貸住宅：協力不動産 21 店舗 ◎あんしん賃貸住宅：47 箇所	・課題：身寄りのない方の身元引受人の記載
社会参加	社会参加促進のための効果的な支援事例の収集・ノウハウの共有	◎ケースを通した報告 ◎自主製品の出店の機会、イベントのボランティア ◎こもりびと内の活動◎デイケア祭り ◎ポピーフリーマーケット	・圏域活動に参加・情報収集
	精神医療機関、サービス提供事業所等と HW、企業の連携促進	◎就労系の事業所は関係機関とのパイプをそれぞれ作れている ◎大和市ネットワーク会議が定期的行われ、情報交換や研修会を実施	・就労選択支援事業 ・企業との対談や企業も支援機関と繋がりたいというニーズへ対応
	精神障害者雇用トータルサポーター、ジョブコーチによる職場定着支援	◎精神障害者雇用トータルサポーター、就職コーディネーターを配置。 ◎就職コーディネーター：機関・企業とのコーディネートをする。	
	就労定着支援事業の活用促進	◎就労定着支援事業所 6 か所 ◎委託相談：就労支援 ◎大和市就労支援ネットワーク	
	ピアサポーターの活躍の機会の確保	◎やまとと（当事者会）：現在は月1回定例会を実施。情報誌の作成や講演の依頼を受け講師としても活動。	・理解促進や普及啓発研修時に当事者の生の声を伝える機会持つ。
保健・予防	精神的不調に対するセルフチェック、援助希求行動促進のための啓発	◎心の体温計（ストレスチェックできるもの）。	・情報をみえる化
	精神保健相談業務の充実、窓口の周知、相談ルートの整備	・こころの病の案内チラシを作成し、厚木保健福祉事務所大和センター、障がい福祉課、やまと、24 時間健康相談、大和市自殺防止相談、なんでもそうだんやまとで配布 ・総合相談窓口が設立：包括支援係	・複合・複雑化した家庭が増加 ・1 機関のみでなく、横断した内容を検討する場が必要

	必要な支援（医療も含む）へのアクセスの確保	◎大和市医療機関データベース ◎相談窓口チラシ（健康相談自殺予防）	・課題：支援に繋げるための移動面の確保
	家族支援の充実	◎家族会（さくら会） ◎ケースワークでのサポート ◎地域活動支援センターポピーで家族相談	
	ひきこもり支援、自殺予防施策等との連携	◎ゲートキーパー：国の事業 ◎大和市では心サポーターとの名称で現ゲートキーパー活動を先駆的に実施 ◎自殺対策予防週間・月間普及啓発 ◎やまと24時間健康相談 ◎大和市自殺防止相談 ◎包括支援係 ◎こもりびと：障がいの有無にとられないひきこもり支援 ◎地域包括支援センターがアウトリーチケースの発見者となっている	◎〇複合・複雑化した家庭が増加。 ・I 機関のみでなく、横断した内容を検討する場 ・様々な機関との連携・つながり作り ・こもりびと、包括支援系の活動内容を知る ・ちょっとした社会参加の場所・機会（ポピーや自立訓練の前段階）
医療	保健・医療的アウトリーチの充実と効果的な支援の在り方の検討	◎保健福祉事務所ケース会議 ◎精神保健福祉相談：専門医師による個別相談（無料）本人の了承があれば自宅を訪問しての相談も可能 ◎未治療の方の相談：厚木保健福祉事務所大和センター	◎〇複合・複雑化した家庭が増加（同上） ・課題：内科など複数をまたがる方の対応
	精神科救急医療体制整備	◎大和病院：精神科単科（輪番制で対応） ◎24時間健康相談健康相談 ◎神奈川県救急医療窓口	◎〇複合・複雑化した家庭が増加（同上）
	地域の身体科医療機関、学校、職場、行政等との連携	◎大和市医療機関データベースの活用 ◎かながわ医療情報検索サービス ◎青少年相談室 ◎産業医（就労相談で繋がっている方）	
	多様な精神疾患に対応できる医療連携体制推進	◎初診の段階で主治医の指示で医療機関を紹介 ◎医療機関との情報共有	・精神科に特化した施設やサービスない。 ・家族の高齢化・・・いずれ単身生活になっていく。
	外来機能（デイケア・訪問サービス・ケースマネジメント）の強化	◎訪問看護 ◎デイケア ◎地域活動支援センターポピー ◎計画相談 ◎大和病院 相談室	・支援者間の連携強化
	精神医療と身体科医療の連携	◎大和病院：相談員と一緒に通院同行 ◎総合病院の相談室と連携 ◎〇家族（身元保証人）がいないと病院の受け入れが難しい。	
	入院患者の早期の地域移行・地域定着に資する取組の実施と検証	◎長期入院患者（5年以上）が毎年5名退院：大和病院	地域移行・地域定着のための必要な基盤整備量の目標を明確にし、障害福祉計画等と整合性をはかりつつ基盤整備を推進
	長期入院患者の効果的な退院支援のプログラムの提示	◎ぴあサポーター冊子を院内に掲示 ◎ピアサポーターの養成・スキルアップ	
障害福祉・介護	地域相談支援の利用促進	◎なんでもそうだんやまとの周知 ◎計画相談を通した定期的な関りの機会	・計画相談事業所拡充 ・委託相談：本来の機能が出来るよう計画相談の整理
	精神障害者支援の質を確保するためのサービス提供事業所育成	◎職員向け研修の実施 ◎事業所の新人向けに病気の理解、当事者の話をしてもらう機会の設定	
	効果的な支援プラン、ノウハウの共有	◎連絡会の活用 ◎発達支援勉強会（アセスメント力向上・事例	

		検討・ベースアップ)	
	介護支援専門員等への効果的な研修等の検討、介護と福祉の連携	◎地域生活支援部会にて介護保険分野との連携会議を実施 ◎地域包括支援センター 地域ケア会議に出席 ◎ケースを通じた連携	

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（イメージ）

